

1. ワークショップの概要

1.1 第6回ワークショップ

第6回ワークショップの概要は表1に示すとおりであり、主な議事を表2に示した。

第6回ワークショップでの議題は、結果報告およびとりまとめ・考察についての確認と、市民協働による維持管理について。今後の実施に向けた基本的な考え方の確認であり、主な指摘事項は以下のとおりであった。

- ・常磐公園の自然環境について、整備前から整備後にかけて丹念な調査を実施し、良いデータが蓄積されたと考えられる。
- ・常磐公園における主要な種を明らかにしておくこと、次の展開に繋がって行くと考えられる。
- ・公園の自然環境に対する市民の関心を高めるには、データの公表や自然観察会等の開催により、地域の自然を知ってもらうことが重要である。
- ・今後は、市民が常磐公園のモニタリングにどのように係っていくかが大切である。

表1 第6回常磐公園自然環境調査ワークショップの概要

日時:平成29年10月27日(金) 18:00~20:40

場所:旭川市第3庁舎土木部第4会議室

出席者:

◆有識者

塩田 惇(あさひかわ自然共生ネットワーク)、出羽 寛(あさひかわ自然共生ネットワーク)、寺島 一男(あさひかわ自然共生ネットワーク)、南 尚貴(旭川市科学館)

◆業務受託者

前田 敬(管理技術者)、舟口 義臣(担当者)

◆事務局

水野 雅博(土木部公園みどり課)、山崎 正太(土木部公園みどり課)

大窪 俊英(土木部公園みどり課)

配付資料:

・第6回ワークショップ議事次第(A4 1頁)

・常磐公園自然環境調査 第6回ワークショップ資料

調査結果総括(案) (A3 67頁)

・常磐公園自然環境調査 第6回ワークショップ資料

調査結果総括(案) 資料編 (A3 44頁)

表 2(1) 第 6 回常磐公園自然環境調査ワークショップにおける主な議事

懇談会の概要

●常磐公園自然環境調査結果の総括

受託者の株式会社建設技術研究所より、自然環境調査の整備前・整備後調査の総括(まとめ)について説明を行い、有識者及び事務局と意見交換を行った。

●常磐公園の市民協働による維持管理について

市民協働による維持管理について、有識者及び事務局と意見交換を行った。

議事概要は以下に示すとおりであり、項目別に示した。

【常磐公園自然環境調査の総括】

(1)植物調査

- ・なぜ A1 ブロックは外来種の比率が高くなかったのか(有識者)。
 - 改変後には、外来種が侵入しやすくなることと、法面への吹付種に外来種のシロツメクサが含まれており、そのシロツメクサが優占したため外来種の比率が高くなった(受託者)。
- ・外来種と植栽種を合わせて帰化率を算出しているが、分けて整理した方が良い(有識者)。
 - 改めて報告する(受託者)。

(2)鳥類調査

- ・重要種の確認概要で、「オオタカが整備前に常磐館のガラス窓に衝突」と記載があるが、図書館の窓への衝突なので修正すること。また、平成 27 年 2 月 4 日にクマゲラが整備前に図書館の窓に衝突死しており、あわせて記載すること(有識者)。
 - オオタカの衝突箇所を図書館に修正し、クマゲラの衝突についても記載する(受託者)。
- ・オオムシクイは、6 月頃には市内の至る所に飛来しており、重要種であるが珍しい種ではない。公園も含め市内で見える個体は繁殖個体ではなく、通過種であると考えられる(有識者)。
 - オオムシクイの確認された個体は、通過種である旨を記載する。オオムシクイは北海道レッドリストにおいて、道内の繁殖個体が、地域個体群(Lp)に選定されている(受託者)。

(3)両生類・爬虫類・哺乳類調査

- ・ツチガエルの以前の旭川周辺の確認は、当麻周辺のため池から桜岡、ふじ沼で確認している。平成 9 年に調査した際には、局地的な確認であった。ふじ沼はヘラブナを放流した時にまぎれて侵入したと考えられるが、常磐公園は人為的に持ち込まれた可能性もある。いずれアズマヒキガエルの確認の可能性も考えられる(有識者)。
- ・外来種は、数が少ないほうが駆除しやすい(有識者)。
- ・アライグマが、東光や東旭川で確認されてきている。既に市内全域に生息しているのではないか。いずれ常磐公園内でも確認される可能性がある(有識者)。
- ・ヤマコウモリの利用木は、これまで公園内全体で 4 本確認されている。今回の調査で確認されている 2 本の他、ラジオ体操会場付近にあった樹木と、今回の確認木の南側にある樹木でも、利用が確認されている。前者は伐採され、後者は葉が茂り、現在の利用はない。樹種は、いずれもドロノキである(有識者)。
 - 有識者からの情報として本文に記載する(受託者)。
- ・ヒナコウモリ的一种は、旭橋の近くの民家で確認されているチチブコウモリと、石狩川沿いで確認されているモモジロコウモリの 2 種の可能性がある(有識者)。

(4)昆虫類調査

- ・現在同定中であり、今回の報告に載せていない。結果がまとまり次第報告する(受託者)。
- ・了解した(有識者)。

(5)魚類調査

- ・整備前、整備後において、種構成における違いはなかった(受託者)。

(6)微気象調査

- ・整備によって樹木を伐ったのは事実であるが、マント群落があった訳ではないため、影響は小さかったのではないか。(有識者)。
- ・風速には、展葉期は葉の密度も関係しているが、落葉後の枝でも影響が出る。(有識者)。
- ・整備前の河川敷の観測地点が移動している点を考慮し、観測地点毎に考察を行うのが良い。公園外の観測地点の移動のため、統一した見解は難しいかも知れない(有識者)。
 - 観測地点も考慮して考察し、改めて報告する(受託者)。

表 2(2) 第 6 回常磐公園自然環境調査ワークショップにおける主な議事

懇談会の概要
<p>(7)総括・樹木の代表種として、ハルニレやヤチダモとあるが、ドロノキも記載したほうが良い(有識者)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常磐公園の自然環境について、整備前、整備後と丹念に調査をし、良いデータの蓄積が出来たと思う(有識者)。 ・重要種に偏った整理になっており、在来種で常磐公園において何が大切な種か、主要な種は何なのかを押えておくと、次に繋がって行くと考えられる(有識者)。 ・中心部にある割には高木が生育する公園であるが、林床の植生が非常に貧弱であることから、生き物にとって生息しにくい環境になっている(有識者)。 ・常磐公園の課題であるが、常磐公園の広報活動及び利用方法に繋がる事に関しても記載した方が良い(有識者)。 <p>【常磐公園の市民協働による維持管理について】</p> <p>(1)市民と公園との係わりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園の自然環境に対する市民の関心を高めるには、データの公表や自然観察会等の開催により、地域の自然を知ってもらうことが重要である(有識者)。 ・公園の積極利用を働きかける際には、歴史的な背景なども関連付けると良い(有識者)。 ・市民が今後、モニタリングにどのように係っていくかが大切である(有識者)。 <p>(2)維持管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来種の駆除は必要であり、侵入した早めの段階で駆除を行うのが理想的である。確認されたツチガエルについては、現段階であれば駆除できる可能性がある(有識者)。 ・日陰にツツジを植栽し枯死した事例もあることから、植栽する際は、周辺環境に応じた植栽を行うこと(有識者)。 ・自然更新ゾーンのマルチング(砕石)が当初の想定より厚くなっているが、砕石のすき取り、除草は必要か(事務局)。 <ul style="list-style-type: none"> →現状で実生が生育していることから、管理の必要はない(有識者)。 ・老朽木の見回りはどのように行ったらよいか(事務局)。 <ul style="list-style-type: none"> →樹木の専門家も必要であるが、生態系に関する専門家も必要である。また、樹木の再生・救済も視野に入れるべきである(有識者)。 →枝枯れしている樹木であっても本体は健康な場合もあるため、判断基準は整理しておくべき(有識者)。 ・常磐公園は現在単層林であることから、伐採前に先に植樹を進めることが望ましい(有識者)。 ・例えばエゾリスが好むオニグルミなど、動物の餌となる樹木を選択する考えもある(有識者)。 ・伐採木は丸太状にして集積しておくとし昆虫類が発生し、その幼虫を採餌する鳥類の餌場となる(有識者)。 ・現在旭川の公園は、人が園内のどこにでも入れる状態であるが、立ち入りを制限する範囲もあって良いのではないか(有識者)。 <p>(3)ブッシュゾーンについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在実施している水路際の草地環境だけの設定では無く、将来的には樹林の林床についてもブッシュゾーンとして追加で設定するのが良い。それぞれ別な役割を担うことになる。(有識者)。 ・ブッシュゾーンの創出には、最初にすき取ったりする必要はない。そのまま放置しておく方法もある。 ・ブッシュゾーンの評価は、長期間にわたる評価が必要である(有識者)。 ・ブッシュゾーンのアンケートは、目的・方針等を記載すると設定の意図が伝わるのではないかと(有識者)。 ・草地環境に生育する種として、市民の虫となっているカンタンがあげられるが、旭川新聞の記事によると「旭川では、カンタンの鳴き声が公園では聞こえない。」という記事が出ていた(有識者)。 ・旭川科学館の敷地内の一部に、オオヨモギ草地が残りカンタンが生息している。緩傾斜化法面にオオヨモギ等のキク科の高茎草本が入ってくると、カンタンの生息環境になる(有識者)。 ・ブッシュゾーンには、放置しておくといずれ高茎草本が入ってくると考えられるが、カンタンへの配慮を考えた場合、オオヨモギ等のキク科草本をまばらに植栽しても良い(有識者)。